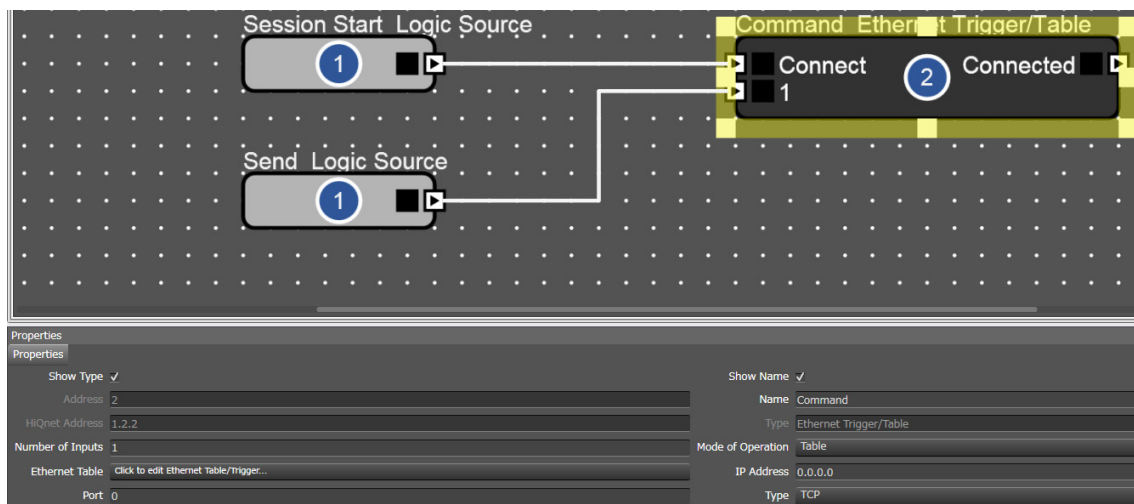


## BLU からイーサネットを使って外部機器を制御する方法

Logic オブジェクト「Ethernet Trigger/Table」を使うとイーサネット経由で外部機器を制御することができます。



コマンドを送るまでの流れは、上部の名称「Session Start」という Logic Source を「ON」することで、外部機器との通信が開始され、接続が確立されると「Connected」が点灯します。「Connected」が点灯していないと、1へON, OFFのコマンドを投げても動作しません。

接続が確立されている状態で「Send」Logic Source をON、OFFすると、「Ethernet Trigger/Table」に設定したコマンドが外部機器へ送信されます。

### \* 注意 \*

Ethernet Trigger / Table の仕様上、外部機器との接続が確立し

「Connected」が点灯したまま、LAN ケーブルが抜けたり、外部機器の電源が落ちたりして、実際には外部機器との接続が切れてしまった場合でも「Connected」が点灯したままになることがあります。

そのため、コマンドを送るたびに外部機器との接続を開始、接続を確立した後に、コマンドを送り、送り終わったら接続を切るほうが安全です。

ここからは外部機器として NEC プロジェクター「NP500J」を使用した例を説明します。

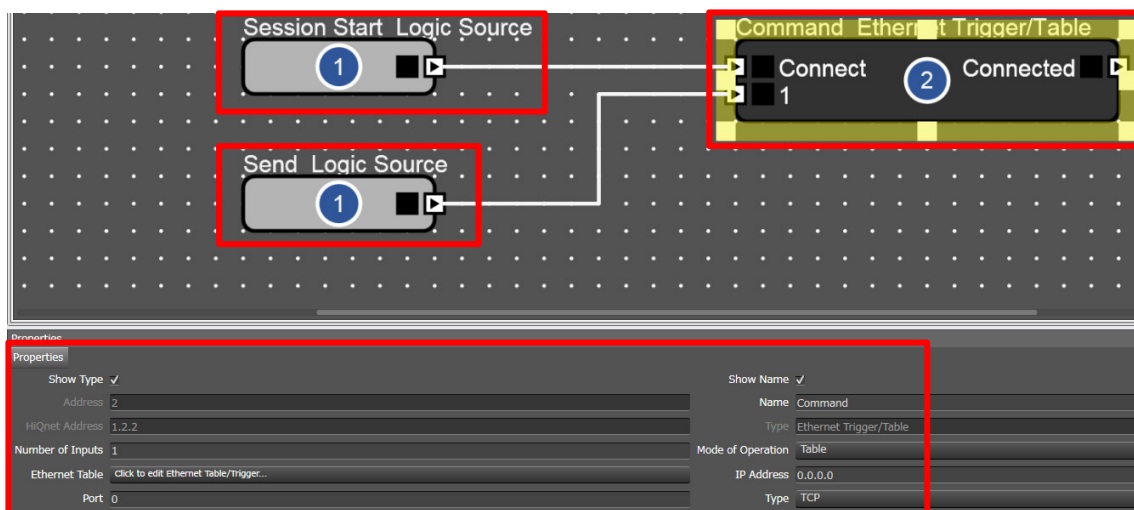
NP500J は、初期設定で以下の設定になっています。

IP アドレス・・・192.168.0.10

TCP ポート番号・・・7142

接続する機器と BLU や PC の IP アドレスは、同じ IP アドレス帯に設定してください。

(PC は 192.168.0.2、BLU は 192.168.0.20 など)



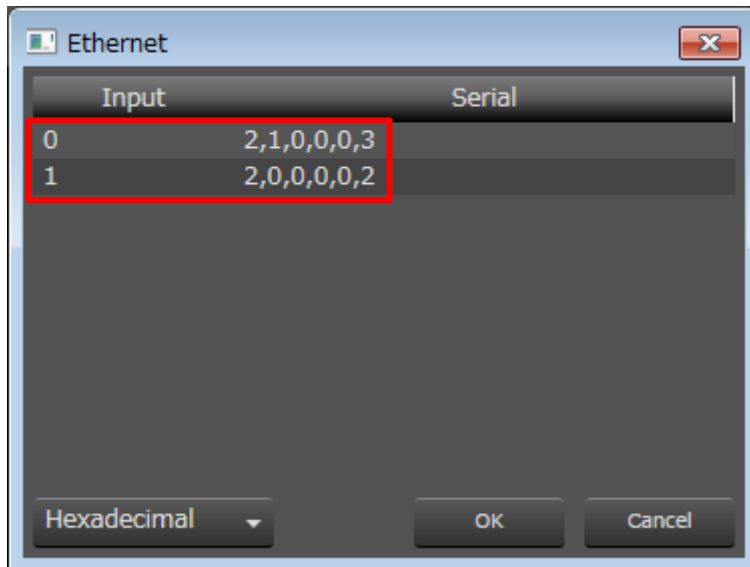
IP Address・・・192.168.0.10 (NP500J の IP アドレス)

Port・・・7142 (NP500J が使用するポート番号)

Type・・・TCP (NP500J が使用する通信プロトコル)

Ethernet Table・・・外部機器 (NP500J) へ送信するコマンドを指定します。

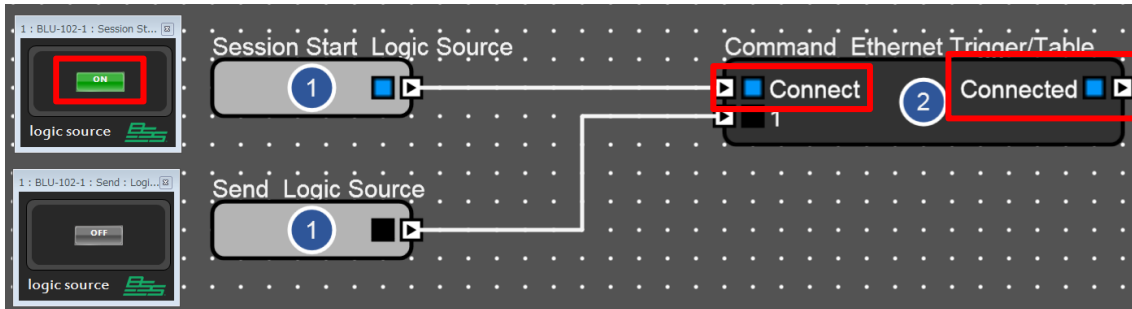
外部機器へ送信するコマンドを Ethernet Table に設定します。  
NP500J の場合、Hexadecimal (16 進数表記) で、  
電源オフ・・・2,1,0,0,0,3  
電源オン・・・2,0,0,0,0,2  
となりますので、以下のように設定します。



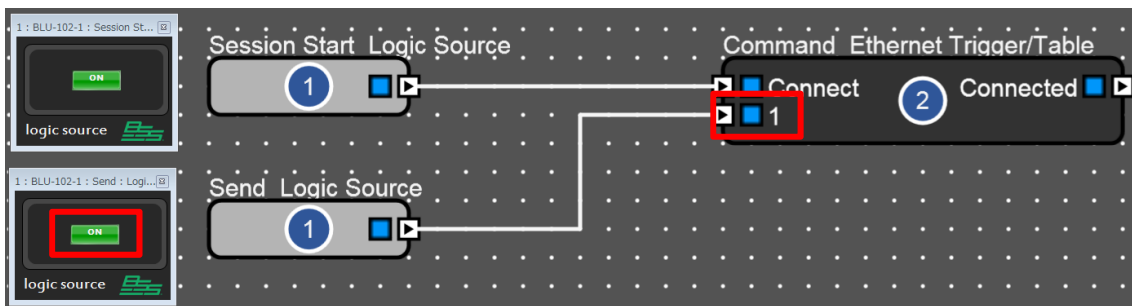
これで、「Send」 Logic Source が ON されると、プロジェクター電源オンコマンドが送信され、OFF されると、電源オフコマンドが送信されます。

「Send」 Logic Source は、相手機器との通信を開始、停止するものではなく、コマンドを送信するオブジェクトであることに注意してください。

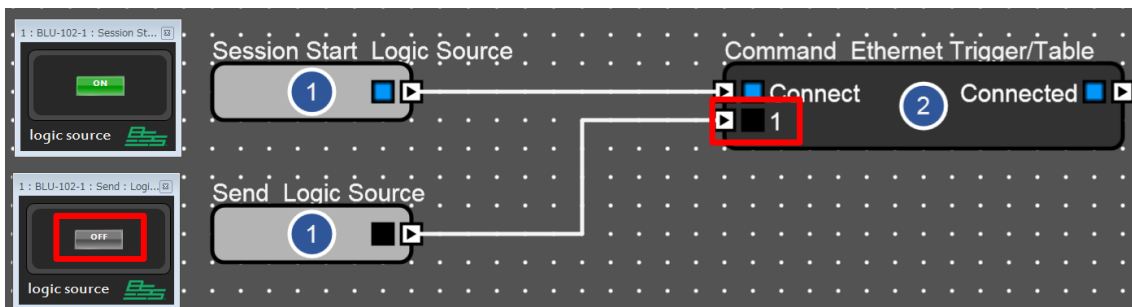
1. 「Session Start」を ON にすると、プロジェクターとの接続を開始し、プロジェクターがコマンド待ち受け状態になると、「Connected」が点灯します。  
プロジェクターとの接続が出来ない場合は、「Connected」は消灯したままになります。  
IP アドレスやポートなどを確認してください。



2. コマンド待ち受け状態【「Connected」が点灯状態】から、「Send」を ON にすると、プロジェクターの電源が入ります。



3. コマンド待ち受け状態から、「Send」を OFF にすると、プロジェクターの電源が切れます。



注意する点として、

「Connected」が消灯しているときにコマンドを送信しても、相手の機器に送ることが出来ませんので、必ず点灯している状態でコマンドを送信してください。

また、相手の機器に正しくコマンドが送信されたかどうか、

相手の機器が正しく動作したかどうかを判断することが出来ません。

オブジェクトの仕様上、ACK メッセージや GET メッセージを受け取ることが出来ません。

以下のように、「Session Start」と同時にコマンドを送信するようなロジックを組んでしまうと、相手機器との通信が開始される前に、コマンドを送ってしまい動作しない場合があるので通信開始とコマンドの送信は分けてください。

